

平成29年度河内採択地区教科用図書採択協議会議事録

平成29年7月14日（金）午前9：00～
宇都宮市教育センター コミュニティホール

【出席委員】

水越久夫会長，森田良司副会長，山田葉子委員，清島康伸委員，櫻井定一委員，
清水智生委員，加藤謙一委員，上原秀一委員，福田治久委員，橋本絵理委員

（小学校）

高野英司委員，高田晴久委員，木村寛之委員，小松俊雄委員

（中学校）

阿久津純一委員，氷室清委員，桑川佳寿子委員，鹿嶋実委員

【事務局】

事務局長（宇都宮市教育委員会事務局学校教育課長，宇都宮市教育委員会教育センター所長），事務局次長（宇都宮市教育委員会事務局学校教育課指導グループ係長，宇都宮市教育委員会教育センター相談グループ係長），書記（宇都宮市教育委員会事務局学校教育課指導主事，宇都宮市教育委員会教育センター指導主事，上三川町教育委員会事務局学校支援課指導主事） 計12名

【傍聴者】

8名

- 1 開 会
- 2 委員紹介
- 3 会長あいさつ
- 4 事務連絡

事務局が，平成29年度教科用図書採択事務における採択事務の手順や採択の基本方針等について説明した。

5 議事

（1）報告事項

- ① 採択事務の手順について
- ② 平成30年度使用教科用図書の採択の基本方針について
- ③ 河内採択地区教科用図書採択協議会規約について
- ④ 調査研究における観点について
- ⑤ 特別支援学級用教科用図書等について

（2）選定協議及び採決

- ① 選定方法の説明
- ② 小学校道徳
- ③ 小学校特別支援学級
- ④ 小学校道徳及び小学校特別支援の採決
- ⑤ 中学校特別支援学級
- ⑥ 中学校特別支援学級の採決

6 事務連絡

事務局が教科書採択に係る日程等について連絡した。

7 閉 会

1 種目 道 徳

2 選定協議

(1) 調査報告

説明員が、調査研究の対象となった教科用図書の調査結果について報告した。（「参考1」、「参考2」参照）

(2) 教科書閲覧

調査研究を行った教科用図書の見本本を採択協議会委員が閲覧し、報告内容の確認を行うとともに、相互の比較検討を行った。

3 主な協議内容（「⇒」は、説明員等の回答）

- ・ 東京書籍と日本文教出版の発問に関する評価が分かれていることについて、説明願う。
⇒ 各教科書会社において発問は工夫されているが、東京書籍においては、児童に課題意識をもたせ、考えを広げる上でヒントとなるような発問となっており、一方で、日本文教出版においては、より具体的な発問であるため、児童の考えを左右させたり自分の意見が言いづらくなったりすることが懸念された。
- ・ 廣済堂あかつきについても、東京書籍と同じように高評価となっているが、なぜか。
⇒ 具体的な発問でも、体験的な活動や課題解決的な活動につながるような文言や表記があることから有効であると考えた。
- ・ 光村図書出版は、一年間の活用時期等が示されており、各学校の年間指導計画への反映が難しいとあるが、一年間の配列において日本の四季を取り上げるなど児童にとって、より身近な内容は学習に取り組みやすいと考えるが、説明願う。
⇒ 道徳の年間指導計画作成については、各学校が児童の実態に応じて重点内容項目を設定し、行事や各教科との関連に応じて割り振っていくのが望ましいとされている。よって、学校は、題材の入替えについて重要視しており、学習月等まで明示されているものについては、各学校の実態に応じた配列に変更しづらい。
- ・ 各教科書会社とも1年生の教科書は、国語等の教科書と比べると文字が小さいと感じるが、調査の対象になったか。
⇒ どの教科書会社も同様に国語等と同じく文字が小さくなっているが、文字を読むだけでなく場面絵なども活用するので、教師の指導における工夫で対応できると考える。
- ・ しっかりと授業を行うためには、教師の発問、補助発問、話し合うテーマや単位時間の流れが必要となると考える。特に若い先生方にとっては、ある程度、意味のある発問が掲載されている教科書がよいのではないか。
⇒ 主體的に自分の意見を持ち、意見の異なる者と十分議論するに当たって、できる

だけ授業の流れや子供たちの意見を限定しないようなものがよいという意見が多かった。また、どの教科書会社においても、今後求められる課題解決的な学習や言語活動を重視した授業を行う上での方法等を教科書の冒頭などに明記しており、授業を行う教師への配慮が見られる。さらに、年間指導計画のモデルプランにおいて授業の流し方や授業のポイントを示すなどの対応を考えている。

- ・ 紙質についてだが、ほとんどの教科書会社で白色を使用している。見やすさなどについて調査したと思うが、説明願う。
⇒ 現在使用している副読本は白い紙を使用しているものが多く、子供たちは違和感を持たずに学習に臨むことができるという意見があった。
- ・ イラストの割合が大きすぎると、子供たちがイラストに影響され、考えが深められないと考えるが、これについてどのような協議がなされたか。
⇒ イラストの割合が大きすぎることも問題だが、道徳の授業を進めていく上で、文章を読み取っていくというよりは、文章の中の情感などとともにイラストの表情等から考えることもあり、イラストは、子供たちの発想において重要であると考え。

4 選定結果

(1) 選定した発行者 (東京書籍)

(2) 主な理由

- ・ 本書は、教材冒頭にある、キャラクター「こころん」の発問がよい導入となって教材の世界に入りやすくなっていると同時に、児童に親しみのある絵本やアニメ、活躍している人物を教材として取り上げることで、児童の興味・関心を高める工夫をしている。
- ・ また、「出会う・ふれあう」において、書くことで自分の考えを明確にし、話し合いをすることで異なる考えに接することができるような工夫がなされるなど、充実した言語活動が行えるよう配慮されている。
- ・ さらに、低学年では「つながる・ひろがる」が設定されており、中・高学年では「問題を見つけて考える」、教材文、「考えるステップ」がセットとして設定されるなど、問題解決的な学習や体験的な学習ができるよう配慮されている。

1 種目 小学校特別支援学級 学校教育法附則 9 条図書

2 選定協議

(1) 調査報告

調査研究の対象となった道徳科 2 点について、調査員 6 名で調査し、その結果を調査研究総括用紙により報告した。（「参考 3」参照）

(2) 図書閲覧

調査研究を行った全ての図書を採択協議会委員が閲覧し、調査研究及び報告に対する確認を行うとともに、選定について検討を行った。

3 主な協議内容（「⇒」は、説明員等の回答）

- ・ 「絵でわかる こどものせいかつずかん 4 おつきあいのきほん」はシリーズで 4 冊あるが、それを全て選定するということはできないのだろうか。
⇒ 他のシリーズは調査対象となっておらず、選定することはできない。今回調査対象となっているこの 1 冊で道徳科の内容をすべて網羅している。
- ・ 「絵でわかる こどものせいかつずかん 4 おつきあいのきほん」は、6 年生の子どもを考えたときには内容として物足りないように思うが、どうだろうか。
⇒ 知的障がいのある児童の実態を考慮すると、6 年生であるとしても児童によっては実態に応じた内容であると言える。
- ・ 「マンガでわかる よのなかのルール」は、本の大きさが小さいため、教科書としては使いにくいのではないか。
⇒ 本の大きさや文字の大きさが小さいため、教科用図書としての活用には課題があると考えている。

4 選定結果

(1) 「絵でわかる こどものせいかつずかん 4 おつきあいのきほん」

- ・ 結果： 選定する
- ・ 理由： 道徳科の内容が特別支援学級の児童にも分かりやすく簡潔に書かれており、日常生活に役立てることができる。

(2) 「マンガでわかる よのなかのルール」

- ・ 結果： 選定しない
- ・ 理由： 大人が児童とともに使用することを想定し編さんされたものであり、難しい言葉や文章が使われているため、児童の実態に即して使用することが難しい。

1 種目 中学校特別支援学級 学校教育法附則 9 条図書

2 選定協議

(1) 調査報告

調査研究の対象となった2種3点について、調査員5名で調査し、その結果を調査研究総括用紙により報告した。（「参考4」参照）

(2) 図書閲覧

調査研究を行った全ての図書を採択協議会委員が閲覧し、調査研究および報告に対する確認を行うとともに、選定について検討を行った。

3 主な協議内容

- ・調査研究した3点ともに、学習指導要領に示されている内容と照らし合わせて考えたときに、不足している点が多いことから、教科用図書としては不十分だと思われる。

4 選定結果

(1) 「作ってみよう！リサイクル工作68」

- ・結果： 選定しない
- ・理由： 学習指導要領のエネルギー変換や生物の育成等の内容が不足しており、全体の内容も工作的な要素が強く、学習指導要領に示されている内容が不足している点がある。

(2) 「学校では教えてくれない大切なこと⑫ ネットのルール」

- ・結果： 選定しない
- ・理由： 学習指導要領の情報モラルに関する内容に限定しており、学習指導要領に示されている内容が不足している点がある。また、文章表現等も難しく理解しづらい。

(3) 「ドラえもん英語図解辞典」

- ・結果： 選定しない
- ・理由： 学習指導要領の書くことの内容が不足しており、文字やイラスト等が小さくて見づらい。